



海外から地域おこしの協力隊として 「みんなで作る地域づくり」を目指す

相川 武士さん 千葉県南房総市 地域おこし協力隊
Takeshi Aikawa

協力隊活動を通じて、自身ではなく当事者が中心になる「仕組みづくり」を体得した。
黒子に徹し、化学反応の速度を速める『触媒』としての役割。
そのスタイルは、交わらない人たちが交わる場を作り、地域の未来を変えていく。

当事者中心の仕組みづくり 青年海外協力隊で体得

バックパックを背負い、アフリカや中東を旅した学生時代。現地で活動する青年海外協力隊との出会いから、そういう道があることを知った相川さん。将来は研究者として海外に行こうと考えていたが、貧困や環境など世界の課題と



現状を知ることが必要と思い、協力隊参加を決意した。

東アフリカのルワンダに派遣された相川さんは、優秀な生徒たちが集まる中高一貫校に理数科教師として赴任し、化学や生物の実験など実践的な指導を中心に活動。しかし、現地教員たちの指導レベルの高さを知り、自身が一教員として授業をするよりも、実験道具の使い方を指導したり、休眠していたサイエンスクラブを復活させて軌道にのせたりの方が学校にとって役に立つと判断した。

「裏方としていろいろと根回しをして、普段は手に入らない物をこっそり仕入れたりしました。生徒たちは何も知らず自分で発見したと信じて喜んでいる。そん

な姿を見るのも嬉しかったですね」

自身は前面に出ず、黒子に徹する。化学反応の速度を速める『触媒』のような存在になることで、当事者が中心になる。そんな仕組みづくりが、いつしか相川さんのスタイルになっていった。

夫婦そろって地域おこし協力隊 新たなまちづくりに挑戦

帰国後、都内でWeb制作や貿易などの仕事をしていた相川さん。その時に住んでいたシェアハウスは180部屋もあるソーシャルアパートメントで、1階が交流スペースになっていた。多様な生き方や新しい働き方をしている人たちと出会い、その仲間の一人と結婚。子どもが



中国人観光客の節分体験にて、豆を投げられる鬼役を演じた相川さん。外国人向けのツアーガイドを担うなど、観光振興支援に努めた。



駅前にある相川さんの自宅。地域の人と観光客を繋ぐ交流スペースになるよう、1階部分を改装中。



より良い地域づくりに向け、現在の課題を話し合うための協議会を定期的に開催。

生まれたのをきっかけに自然豊かな環境で子育てをしたいと考え、2017年に千葉県南房総市に移住。夫婦そろって地域おこし協力隊という、珍しいスタイルで活動をスタートさせた。

南房総市では、大型バスで来て花摘みをするような従来型観光だけでなく、インバウンドや個人観光、ワーケーション、農泊など、移住に繋がるような観光でまちづくりをするために人の流れをどう作るか、ヒントを探っていた。観光の専門外から観光に取り組んでいくという、新しいアプローチを地域おこし協力隊に託したのだ。

相川さんは、外国人の南房総市に対する認知度の低さが課題だと考えた。外国人ツアーのプログラム作りをするために、地域の様々な飲食店に足を運び調査したほか、インバウンド観光の対応に苦慮する商店や旅館の人たちを支援するために、フリーWi-Fiを設置して 구글検索で上位に出てくるように設定するなど、IT環境などの整備を進めた。また、市役所や観光協会、民間団体などと連携を強め、多くの外国人に南房総市に来てもらえるよう努めた。

『触媒』としての役割 地域の未来を変えていく

2019年9月、台風15号の襲来は千葉県にも大きな被害をもたらした。南房総エリアは家屋損壊や長期停電に見舞われ、相川さんの自宅も少なからず被害を受けた。何か自分たちにできることはないかと、被害の大きかった鋸南町、館山市、南房総市の地域おこし協力隊3人が結集。家屋の屋根修復が喫緊の課題と分かったものの、屋根職人の不足が復旧遅れの原因であることを知る。地元職人も意見交換を重ねた結果、他地域から職人を呼び寄せ、その滞在費を支援金で補填し復旧の動きを加速（ブースト）させるプロジェクト「房総復興ブースター」を立ち上げた。スピード性重視の家屋修復に特化したこのプロジェクトは、4ヶ月で約200万円の支援金を集め、延べ125人の職人の滞在費を補填、288軒の工事を完了させた。

相川さん夫婦は2020年10月に地域おこし協力隊を終了し、そのまま南房総市に定住している。自宅は駅前という便利な立地で、1階部分は地域の人と観光客

相川 武士さん プロフィール

大阪府出身。大学卒業後、青年海外協力隊の理数科教師隊員としてルワンダで活動。帰国後、Web制作や貿易などの仕事を経て、2017年より千葉県南房総市の地域おこし協力隊として、インバウンド観光やIT環境整備、情報発信などを担当。2019年の台風15号では、被害の大きかった南房総地域で屋根職人とその支援者を全国から集める「房総復興ブースター」を立ち上げた。

などを繋ぐ拠点にしようと改装中だ。今後はIT系サービスを事業化し、ネット環境が整っていない昔ながらの民宿へのアプローチや学習塾を始めることも計画している。地域には高齢者が多く、ITに対して苦手意識が強い。そこで普段困っていることを聞き取り、対策講座を企画。講師はその対策をいち早く取り入れた年配者であり、相川さんはここでも裏方だ。

「地域づくりは、誰かひとりがリーダーシップをとろうとしても、それを良しとしない人がいてバランスが難しい。だからこそ、みんなが『自分が頑張った』と思えるような仕組みづくりが大事です。私はいつも『触媒』のような役割を担い、みんなが主役の地域づくりを目指していきたいです」

相川さんへの エール！

南房総市商工観光部
観光プロモーション課
伊藤 大輔さん



これからも地域づくりを引っ張っていく存在として期待

南房総市は都心から近く海水浴場も空いていて、ほどよい観光地として人気がありますが、昨年の台風やコロナの影響で観光スタイルも変革の時を迎えています。地域おこし協力隊として着地型観光を進めてきた相川さんには、引き続き一住民として時代に即した地域のリニューアルを促進していくような事業展開を期待しています。地域づくり協議会でも副会長を務められ、若者の団体とも関わりがあるので、まさにこれからが腕の見せ所ですね。